

●中国に横たわる農村という民衆の大海。かくも深く濃い、そして素朴な情感を湛えていられるのは何故か。珠玉のエッセイが描き出す老百姓（ラオパイシン）の肖像。

老師の恋 中国農村肖像画

大阪芸術大学 井口淳子 著

一九八八年から今日にいたるまでの中国農村でのフィールドワークのなかで、私に忘れがたい印象を残した幾人もの「老百姓（民衆）」がいる。彼らの肖像を描くことによって、日本人が抱くステレオタイプの「中国人像」を少しでも変えることができれば、と切におもう。

我々が、「中国人」とふだんいつているのはおそらく、沿海地域の都市部の中国人であろう。書店にならぶ膨大な量の中国関係書はほとんどが沿海部（都市）にかかわるものである。上海、北京、天津など日本人が愛する都市は無数の書物を生み出し続けている。

農村に関する書物が乏しいのはそこに語るべきものがないからだろうか。もちろん、近年、農村を描く莫言や鄭義のような「郷土作家」の作品が続々と翻訳され、厚いファン層をつかんでいる。私も彼らの作品やその映画化によって農村のイメージをやりつけられた世代の一人ではある。しかし、フィクションはフィクションである。作家も映画監督も自らの体験を昇華させた「題材」としての農村や農民は描いても、自分自身がまじわった人々を等身大で叙述することはしない。……

中国人のおよそ六、七割が農村地域に暮らす人々である。彼らの心性をしらずして、中国について語る事ができるのだろうか、農村に住んだこともなく、直接農民と膝をまじえたこともない人々がいつぱしの中国論をのべるのは奇妙なことだと常日頃おもってきた。それが、縁あってフィールドで出会うことができた人々について書いてみようと思いたった動機のひとつである。

中国農村での、あるときは身を震わせて怒り、またあるときは涙を滂沱と流した日々。わずか二日にもみたくない出会いと別れだったにもかかわらず、いまなお忘れがたい印象をきざみつけたひとりの男……。

そういった出会いのひとつひとつを書き進めるうちに、私の体験がある一本の糸でつながっていることにも気づいていくことになった。

まえがき

- 第一章 老師の恋
 - 第二章 占いか、はたまた芸人か
 - 第三章 ゆりかごの村から紐育（ニューヨーク）へ
 - 第四章 暗い穴をみた
 - 第五章 汽車のなかで語られる半生
 - 第六章 お兄さんの水くみ
 - 第七章 占いの夜
 - 第八章 第二の性
 - 第九章 要飯（乞食）からの脱出
 - 第一〇章 雑狗（ツァーコウ）
 - 第十一章 黄河治水局のおじさん
 - 第十二章 尿盆（ニアオペン）
 - 第十三章 人生も戯（芝居）の如く
 - 第十四章 魂をおくる火
 - 第十五章 頑固じいさんと影絵芝居
 - 第十六章 パリの中国人
 - 第十七章 蟹で味わう上海
 - 第十八章 かくも長き一八年
 - 第十九章 北京の女人
- 十元と百元——あとがきにかえて
用語解説集／筆者による関連文献

体裁

・四六判・並製・カバー
・二四〇頁

定価

・一八九〇円
（本体一八〇〇円）

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一-四一九
電話〇三(三二八二八)九二四九
http://www.fukyo.co.jp

注 文 書	
流通センター取扱品	
発売	風響社 TEL: 03-3828-9249
税込み	一八九〇円
部	
井口淳子著 老師の恋 中国農村肖像画	
ISBN978-4-89489-136-4 C0039 ¥6000E	

〔お客様控え〕

ご氏名
ご住所
お電話

月 日